

ベトナム子供基金  
〒113 東京都文京区本駒込2-12-13  
アジア文化会館内アジアセミナー室気付  
TEL:03-3946-4121 (代) FAX:03-3946-7599

QUY HOC BONG LA XANH (ベトナム青葉奨学会)  
c/o TRUONG NHAT NGU DONG DU (ドンズー日本語学校)  
43D/46 HO VAN HUE, PHU NHUAN, HO CHI MINH CITY,  
VIETNAM  
TEL:84-8-8453782 FAX:8454228

## ベトナム訪問ツアー

前号に引き続き、ベトナム訪問ツアーに参加された皆さんの座談会を報告します。今回はツアーの問題点などについてお話ししていただきました。



子供たちの授業風景

ベトナム子供基金通信第5号

目次

- ・ベトナムツアーに参加して--1P
- ・ハノイいろいろ -7P
- ・子供基金事務局より --8P

## ベトナム訪問ツアーに参加して・・・（後編）

### — ツアー参加者座談会 —

- このスタディ・ツアーで、これはちょっとまずいんじゃないかな、というようなことがありましたか？

原：。ダラットはバスで5時間ぐらいかかる所なんですけど、子供たちはあんまり乗物に乗り慣れてないということもあって、その内のふたりの女の子が車酔いしちゃって、かなり苦しそうで、かわいそうだったね。そういうこともあって、ホウエさんは、もうちょっと近くの方がいいんじゃないかな、というようなことをおっしゃってました。

- 場所はむこうで選んだんでしょ？

南：こちらもダラットだったら、いいんじゃないのかな、という感じだったんです。プンタオあたりの海岸の方が、天候にもよりますけれども、子供たちはいっしょに遊べるという感じもしたんですが。

- プンタオってホーチミンからどれくらいかかるのですか？

梅野：3時間ぐらいじゃないですか。半分ぐらいで行きます。日帰りしようと思えば日帰りできるんです。泊まってもいいと思いますけどね。

私、心配しましたのはね、普段から忙しい忙しいっていうホウエさんがまったくつきっきりでやるでしょ。大変だなあと思いましたよ。人数や回数が増えたりしたら、それは増えることはいいことだと思いますけどね。ホウエさんの代わりにやるような人がいないとだめだと思いますねえ。ひとりで、食事の世話からやらなきゃいけないんですからねえ。

南：ホウエさんとゆっくり話す機会はドンズーなりで持たなければならないと思います。ずっと続いて来ていただくというのは大変でしょうね。

- ツアーとしては続け方がいいということでしょうか？

梅野：そういえば、そうですが、ある程度ベトナム語も日本語もしゃべれる人がいないとなかなか難しいですよ。

- それは、言葉の問題だけですか？

南：言葉の問題もあるし、アレンジの仕方というのか・・・。

梅野：やっぱりホウエさんは迫力ありますからね。他の人じゃとでも、言葉はいいとしても迫力が無いということがありますでしょう。

- その他には何かありますか？

南：そうですね、まあホウエさんも言ったことですが、里親の人数が最大でも1回で15名ぐらいじゃないとまずいなという気がしました。やっぱりバスの関係とか、里子が小学生なんかだと通訳がいないと話しが通じないとか、そういうようなこともありますので。

- それは里親が15人行ってもなんとかなるという可能性があるわけですね。子供が2人とか5人とかという人も交じる可能性がありますか？

原：子供の家を探すのに半日かかったっていうと大変だと思いますね。ひとりだけでも。理想を言えば10人ぐらいまでの方がいいのかもしれないね。10人で、子供さんの方にはちゃんと連絡を取って、会えるようにしておいて。はるばる訪ねて行って5分というのはあまりね。

南：そういう意味では、地方に里子がいる人たちというのはやっぱり別行動をとるか、なんか考えないと。みんなと同じ行動で会って、5分、10分ではね。まあ会えないよりいいと言えそうですが、時間かけてはるばる行ったのにね。募集する時に地域別で募集しなくちゃだめですね。

- そういう募集の仕方をするのは難しいかもしれないですね。ただ、どうでしょう。募集したら、いっぱい集まると思われませんか？

原：集まるんじゃないかな。最初はみんな1回ぐらいは行きたいんじゃないですか。

南：1回ぐらいは行きたいかもしれませんが、扱いに困るぐらい大勢くるかどうかはね。タイの場合はどうですか。そういうツアーは1年に1回ぐらいですか。

原：ツアーは全然ないんです。4、5人でまとまって行くっていうツアーは全然組んでないです。だから里親が訪ねてくるのは1割ぐらいって言ってましたよ。百人のうち1割ぐらいって言ってましたよ。

- タイの場合は里子さんは地方にいるんですね。

原：チェンマイです。バンコクだったらすぐ行けるけど、そこからまた飛行機乗り継いで、チェンマイまでというとなかなか遠いですからね。値段は要するに国際航空と同じ値段なんです。僕は今の所は年に一遍ぐらいタイは行ってみようかなあと思っています。

- そうすると、チェンマイでは向こうの方がついて案内してくれるわけですか。

原：そうです。

- でも、いまは一人で行かれますか。

原：言葉の問題があるので、やっぱり一人ではちょっと……。

- 特にツアーを募集しないでやってるんですね、タイの場合は。5人なり集まるのは、どうやって集めるんですか？

原：それは、ただ、東京の事務局のスタッフがだれか行きますかなんて、しょっちゅう声をかけて、こっちが行くと言うと、誰々さんが行くから一緒に行って、なんて言ったりはしますけど。いまは大体個人的にぽんと行っちゃう方が多いんです。向こうで友達がいるから、行けばタイのなかのことはフォローしてくれます。

- 会員の方の人数はどのくらいですか？

原：寮に泊まっている子供は100人いるんですね。だから、それに90か95%ぐらいは里親がついているんじゃないかと思います。



行きたい人を集めるとき、事務局の方で優先順位をつけてることは出来ないですか。

- 呼びかけ方ですね。つまり、何月何日からそういうツアーをやるっていうんじゃなくて、もし訪ねたいなら事務局の方にご連絡いただいて、一定の人数が集まれば皆さんで行っていただく。青葉奨学会にはこれを受け入れていただくように連絡しておく、というような形ができれば大分楽になりますね。このあいだ南さんがやって下さったみたいに、事務局で飛行機の予約から準備して行くのだと相当時間をかけてやらないといけないでしょう。もし、誰々が行きたいというのだけこちらで整理して、みなさんで勝手に行ってください、受け入れは向こうでやりますというようなことができれば、事務局としてはやりやすい。

原： そのタイの会の場合、日本の事務局で学生やなんかが行ったり来たりしてるんで、いつも利用する旅行社というのがちゃんとあるんですよ。そこへちょっと電話すると全部やってくれるんですね。それは事務局の方でやってくれます。

- その日にちを設定するのは本人がやるんですか？

原： 僕がこの日かこの日に行きたいと言うと、事務局がどっちか取ってくれるし、こちらの希望も、出発は夜がいいとか、昼間の便にしたいとか、だいたいそこの旅行社に頼むのです。

南： 最初にその旅行社に連絡して、あとは勝手にやって頂く、これが一番楽ですね。ただベトナムの場合ビザを取って行かなきゃいけないというのがあるから、気をつけなければなりませんね。また例えば、5人行きたいという人がいたとして、その地域も九州と北海道と三重県と東京なんていうことになる、同じ旅行社というのも大変かもしれませんね。それなら、希望を聞いてドンゾーにそのプランを流しておくとかしかならないですね。東京の人だけじゃないから、羽田から関空とか、揃って行けるとも限らないわけでしょう。今回はたまたま、みんな一緒に出発の地点から行けたけれども。

- ひとりで行くっていうと、心細くないですかね？

原： やっぱり心細いですね。慣れてる人はいい

かもしれないですけど。

南： 安心感があるから参加しようという人もいるでしょう。5人でも集まれば、みんなで相談しながら行ける。

原： 関西空港集合にしたらどうでしょう。関西空港に集まって一緒に出発する。それなら大丈夫じゃないですか。

- 経費はどうですか？

原： 8月の終わりとしては、高いとは思いませんでした。日本航空だから言葉は通じるし。

南： ビザと航空券の手配だけなら、そんなに難しくないです。今回は知り合いの所に頼んだわけですから。皆さんそれぞれ知ってるところがあるでしょうから、それを利用すればそんな難しいことはないと思うんですけどね。

原： ビザを取るには、遠いところの人だったら旅行代理店に自分で行ってもらえば代理店がパスポート直接送ってくれますからね。

南： 待ち合わせるには、関空の略図を書いて、この時点でこの場所っていうことを決めておけば、集まれるかもしれない。旅行代理店で言われたくらいではちょっと分かんないですよ。ちなみに私は、行く前に関空の地図ももらってます。

梅野： みなさん初対面ですが、向こうにいけば仲良くなるんですね。帰りは一緒に申請して帰るようにする。とにかく募集の方法が一番問題ですよ。

- あらかじめある地域を決めて、たとえば子供基金通信なんかで、この地域に子供さんのいる方で今回行きたい人がいますかと呼びかける。そして地方の人は独自で代理店に申請して手続きし、当日関空のどこかに集まって一緒に行動する。そういう感じでしょうか。

原： 年配の方で、地方に住んでいて、あまり海外に出たことがなくて、近くに旅行代理店がないところもあるかもしれません。どうしてもひとりでパスポートの申請だとかしなければならぬ。それでも行きたいという人がいるかもし

れないですね。そういう人には特別な世話係みたいな人が、とことん電話で教えてあげるとかして、連れて行くべきだと思いますね。

梅野：代理店は一つにして、あとは各自がサポートとかはそこに直接送る。そうしないと、代理店は動きませんよ。ある程度期日を決めて募集するような形にしないと、みなさんがいつ行きたいってばらばらに言ってきたものをひとつのグループにまとめ上げるってのは、その後の作業の方がたいへんですよ。

南：もう1回募集かけてみますか？期日だけ決めて。いつ頃が一番都合がいいかつかんでやった方がいいような気がするんですがね。学校が全部休みのとき選ぶのか。どっかへ旅行とかするんだったら、休みの日じゃないとだめだし。日常生活見るってことだったら通常の日のほうが。あそこは日曜日だけでしょう。学校が休みなのが。それに、午前、午後がある学校があるんですよ。ある子供は午前中、ある子供は午後行くってところがあるんですよ。まあ、そういう意味じゃ、夏休みがやっぱり無難なところなんですか。要するに、日にちを決めて、事前に子供さんにはきちんと連絡してもらって、集合できるようにしてもらおう。それで希望者はお申し込み下さい、と。

- 今度は運営委員の小沢さんと南さんが長期的にホーチミンに行かれるということなので、向こうでホウエさんと相談して、受け入れ計画をさきに決めていただいて、それに従ってこっちで募集をかける。で旅行代理店一社を決めておいて、参加者はそこと連絡してして戴くということでしょうかね。

原：しかし、10人とか、15人ぐらいで行きますと、4、5日の日程では子供に会うのが大変ですよ。一堂に集めてくれればまた別ですが。

梅野：そうですね。向こうで集めてもらうしかないんじゃないですか。

- 別途行きたいという人は、相談に応じるって感じになるんでしょうか。

南：子供たちと話すためにはやっぱり通訳つけてもらわないとだめじゃないですか。

梅野：通訳の能力ですけどね、日本に留学するつもりで勉強してるんですが、まだまだ学生ですからね、十分な通訳じゃないですね。でもあのぐらいしゃべればある程度は大丈夫なんじゃないですか。

- スタディ・ツアー自体について、まだ何か話すことはありますか。

梅野：子供らにいろんなものをですね、対象になる子供にだけ、はいはいってやっていいのかっていう問題がありますね。また、たとえば可哀想だとか大変だと思うことがあって、お金をあげたくなることがあるんですけどね、そんな場合ご本人がやるよりはホウエさんを通じてやったほうが効果的だと思いますけどね。そういうふうにしてもそのお金がどうなるかって実は分からないし。せっかくホウエさんがいるんですからね。私らもそうです。本当に貧しい、可哀相な人を見るとついついお財布を広げたくるんですね。でもその辺はルールみたいなものを決めとく必要ありますね。

- 前に、何をお土産に持って行ったらいいかという問い合わせがいくつもありまして、ホウエさんは何も持って来るなどというなお話でしたが、原さんのところのグループなのかどうか分かりませんが、タイのやっぱりそういう奨学金を送っているところで、訪ねて来る人に向こうの事務局で辞書とか、本とかノートとか鉛筆とか勉強関係のものを準備してるんだそうです。その範囲から選んでプレゼントするのなら、それを貰えなかった子と差もそんなにはつきません。だいたい日常的に勉強に使えるようなようなもの、そういうものが青葉奨学会の方に準備されてるといいんじゃないかなあと。これからもし、たくさんの方が行くようでしたらね。

原：僕、お土産に買ってくのはハンカチかタオルですね。女の子だったら、ちょっと模様のついた可愛らしいのを買っていく。それ以上の高いものは買わない。そうでなくても、ここへ来てだけでも恵まれてんだからと言われる。ただ手芸したものがたくさんあって買ってくれると子供たちが潤うんですと言われると、そういうのを帰りにお土産に買ってくると、子供たちにその内の半分ぐらいが収入になって、お菓子買ったりなんかするお金になるって言ってます

がね。

梅野：私も最後にホーチミン市で目の不自由な子の学校に行きましてね。本当に可哀相だったからね、お金あげようとしようとしたら、そのお金でこれを買ってといわれたんですよ。籐で編んだカゴがありますね。あれ買えと言うんですよ。買って来たことありますよ。そんなのいっぱいあってもしょうがないんですけどね。

原：タイに行くと子供が刺繍した袋を20個くらい買って来るんです。放課後や休憩時間に、みんな小さいときからやってるんでしょう。市場で買うよりちょっと高いんですけど、子供たちに半分お小遣いになるので、買って友達にお土産にする。みんな一生懸命作ってますよ。だから、何かあげるとかしないで下さいって言われるんですね。日本から持ってった時計とか、そういうものをあげちゃいけない。また、個人的に外出に連れ出してはいけない。寮で責任持ってやっているのだから、スタッフを入れないと、連れ出してはだめってことです。

私たちは、何が食べたいか聞いて、100人全員に1品ご馳走して下さいって申し出ました。ちょっとお金は張りますけれども、自分の里子だけじゃなくて、寮の全員に、パイナップルを30個ぐらいとかお菓子の缶を3つ4つ買って来たりして、みんなで食べました。賄いのスタッフがいて、その方に夕食に何を食べたいかって聞いたら、えびだって。子供も食べたいんじゃないかなあと思ってえびを買ったこともある。おいしいものを少しずつちっちゃく切って食べてるのを見て、どこの国も同じだなあって。一昨年最初に行った時にそうしてきて、今回行った時も、あれから一回もえび食べてないっていうんで、じゃあ、またえびにしましょうかって、えびを買って来ました。そしたら、日本語をちょっとしゃべる高校生になった男の子がひとりで食事してた。「お母さん、お父さん、海老おいしいです」って言ったんですよ。「あ、おいしい。食べてるの」「はい、おいしい」って言ってくれたから、とてもうれしくてね。あの辺の子供だと、おやつでもヒマワリの種ぐらいだそうですね。これが子供たちの最高のおやつですよって言われたけど。

それでも、ここに来てる方が自分の家よりはるかにいい生活だって言っていました。学校で着るものとかかばんとか、みんな支給してもらってる。山にいる人だと本当に。一汁一菜で

すからね。学校のないような山の中で、試験で入ってくるのは7、8人にひとりだって言っていました。競争も大変で、日本みたいになっちゃうのかなと思ったけど、でもそうしないと、途中でやめちゃう人がたくさん出てくるそうですね。そういう意味では、我々の方もこれからいろいろ考えて、手を打たなければいけないですね。寄宿舎というわけにはいかないかもしれないけれども、でも何かあると思いますよ。

- 寄宿舎を管理しているグループがあるわけですか？

原：そうですね。タイに事務局があって、その寮の中に、日本のフォトジャーナリトっていうのかな、向こうの山の国の言葉も10カ国語くらいしゃべる、そういう人がヘッドになって、山岳民族のスタッフを使ってやってるんです。

- 建物を作るのは簡単かもしれないけど、そこを管理していくのが大変でしょうね。

原：その人がどのくらいちゃんとやってくれるかというのが問題になりますね。一年ぐらいいてもなかなか信用できないって、日本人が日本人信用しないからねって言っていました。今は、その子供たちに将来スタッフになってもらえるように養成中って言っていました。いま二人ぐらい、優秀な高校行ってる子がいて、この子は将来スタッフになってもらうようにいま勉強してもらってるんですけど言っていましたね。

梅野：いやあ、だからですね、ドンズー日本語学校で勉強した若者たちが日本に来るでしょう。あの中で帰ってハウエさんの手助けしようという人がいればいいんですが。

南：問題はいろいろありますけれども、改善点もいろいろあって楽しみといえば楽しみですね。それでは今日はこのくらいで、ありがとうございました。

# ハノイいろいろ

トラン・チャン・ベト (在ハノイ)

ベトさんはかつてアジア文化会館の寮に住んでいた元日本留学生で、仕事でハノイを訪れています。物価などを調べていただきました。

## ハノイの物価

- お米 (10kg) 37,000~60,000VND
- 豚肉 (1kg) 18,000~33,000VND
- とり肉 (1kg) 20,000~38,000VND
- 牛肉 (1kg) 25,000~40,000VND
- 卵 (1個) 1,100VND
- 缶ビール 6,600VND  
※露店で買うと2USD
- 新聞(Nhan Dan)- 1部 1,000VND
- 電話 (ハノイから日本へ)  
最初の1分 : 3.8 US\$  
その後6秒毎 : 0.28 US\$  
※ホテルからだともっと高い
- 郵便 (ハノイから日本へ)  
はがき : 4,800VND  
封書 : 7,300VND
- ガソリン (1リッター) 4,500VND
- オートバイ(ホンダ 50cc) 1,000~1,600US\$

4月17日現在 100円 = 9840 VND(ベトナムドン)

## ハノイー人あたりの生活の床面積

資料 : Dan So v a Moi Truong o do thi Thanh Pho Hanoi - Nha XB CTQG Hanoi 1996  
(ハノイの人口と生活環境に関する研究 - 国家政治出版局 - 1996)

	市内	市外
2平米以下	2.3%	3.0%
2~4平米	26.4%	20.0%
4~6平米	29.9%	29.5%
6平米以上	39.4%	47.5%
他	2.0%	0.0%

## 事務局からのお知らせ

会費納付は次のところをお願いいたします。  
 □座名義はいずれも「ベトナム子供基金」です。

郵便振替 : 00140-1-70399  
 銀行振込 : 富士銀行駒込支店 普通預金1495745

里親基金 年額 1口 20,000円	特定の「里子」に奨学金を支給する「里親」になっていただきます。「ベトナム青葉奨学会」から子供と家族の履歴表が届き、子供と手紙のやり取りができます。
一般基金 年額 1口 12,000円	会員全体が子供たち全体の「里親」という関係を想定しています。「ベトナム子供基金通信」によって、会の運営報告、子供たちの様子などをお伝えします。
賛助基金	一般基金に準じます。金額、回数等一切自由とします。

◆転居等で連絡先が変わった場合は、ベトナム子供基金事務局宛にご連絡をお願い致します。

◆事務局への電話でのご連絡は、月～金の午後2時から9時の間にお願いいたします

\*\*\*\*\*

### ♠ あとがき ♠

・第5号をお送りします。スタディ・ツアー座談会の後編を早めにお届けしたかったので、4号との間隔が短くなりました。

・ベトナム語では曜日を数で表わし、日曜日から1,2,3~です。ところで、中国語では月曜日から1,2,3~となります。この違いはどこからきたのでしょうか？ご存じの方がいらしゃったら教えてください。

・子供基金に対するご意見ご質問等は郵便のほか電子メールでも受け付けます。  
 (NIFTY Serve ID:BXA01057, Internet経由:BXA01057@niftyserve.or.jp 担当 堀内 淳)